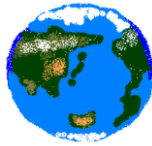


おっぱいだより

2号

現在「赤ちゃんにやさしい病院」に認定されている病院は全国で62カ所です（2009年8月の時点）。この数字が多いか少ないか、いまいち分からないですね。全世界でみると、134カ国では15000もの病院が認定を受けています。1カ国平均では約112の病院が認定を受けていることになります。世界と比較してみると日本はまだまだ少ないのが現状かもしれません。

世界中で



広まっています

そもそもどうして母乳が見直されたの??

始まりは発展途上国の乳幼児の死亡率の高さの問題がありました。発展途上国ではきれいな水が手に入らなかったため、ミルクを作る際に汚染された水で作っていました。その結果下痢や感染症で亡くなる赤ちゃんが大勢いました。WHO・ユニセフは水を用意するのではなく、母乳を見直しはじめました。その結果、母乳の免疫の効果もあり感染症で亡くなる赤ちゃんが減少するすばらしい効果がありました。



危険だよ

またその頃、アメリカでは母子異室がブームの時代で、早く赤ちゃんを自立させるために、別々の部屋で寝て、抱き癖がつくのではと抱っこは避け、頭の形を良くするためにうつぶせ寝が習慣になっていました。

その結果、母乳ではなくミルクが当たり前になり、うつぶせ寝が主な原因とされる乳幼児突然死症候群が多く発生しました。日本もアメリカの影響を多く受けました。戦後はミルクが多く普及したため、母乳よりミルクの方が育つとされ、1970年代は6~7割がミルクで育つようになりました。そんな中、乳幼児突然死症候群の問題や、児童虐待、アレルギーの発症が世間で問題になってきました。そこで、見直されてきたのが母乳育児なのです。戦前は母乳育児が当たり前でした。その事を世界中の国が気付き始め、もう一度母乳の良さや、意味を考えていくべきなのでは。という動きが強まってきたのです。

母乳育児って大変なんじゃないの?

確かに母乳育児が軌道にのるまでは、赤ちゃんは良く泣くし、頻回に吸うので大変です。また、昔と比べて、若い時からのブラジャーの着用や、欧米の食事への変化、ミニスカート・素足・シャワーなどの生活の変化で、冷えやすい体になっている・・・等の変化で母乳が出にくくなっているような印象があります。



冷え症ではありませんか?

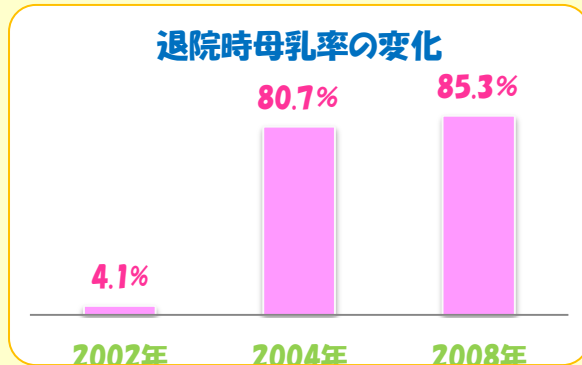
でも、女性は妊娠・出産でホルモンは切り替わり、母乳を出す体へと変化していきます。その時にお母さん1人1人に合ったおっぱいのケアをしていくことで、母乳はでるようになってくるのです。

市民病院 産科病棟の現状は？

年間の分娩件数は平成20年で628件でした。そのうち帝王切開は219件（全体の34.9%）、双子の出産は52件でした。産科病棟の母乳率の変遷は右のグラフに示すように、母乳で退院される方が徐々に増えてきている状況です。

1ヵ月健診時の母乳率は2004年から現在まで、70%程度となっているのが現状です。

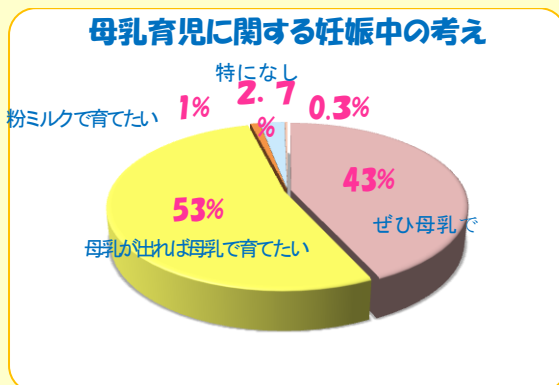
母乳育児を希望されるお母さん達が、退院後も安心して続けられるような支援体制を整えていきたいと考えています。



(図は出生時2500g以上の赤ちゃんを対象にしています。)

日本全体での母乳育児の希望は？

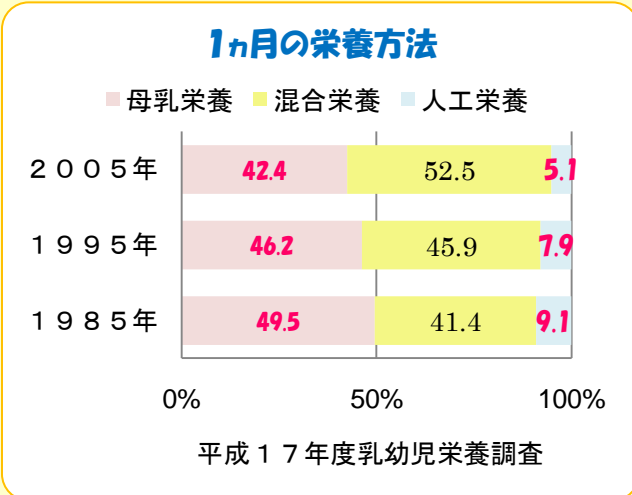
母乳で育てたいと希望される率を平成17年度に厚生労働省が調査しています。その結果、「ぜひ母乳で」「母乳が出れば母乳で育てたい」という方を合わせると、96%の方が母乳育児を希望されています。



日本全体の母乳率は？

96%の方が母乳育児を希望されていても、日本の母乳率はまだまだ低いのが現状です。厚生労働省の調査によると、生後1ヵ月の完全母乳率は50%にも満たしていないのが現状となっています。

現在日本母乳の会では、退院時母乳率を開業医では90%以上、病院では80%以上になるように推進しています。



母乳育児を成功させるための10ヵ条 第2条

全ての医療従事者に母乳育児をするために必要な知識と情報を教えましょう。